

心豊かな暮らし

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

縁_{en}

2014 Vol.32 autumn





季刊
縁 en 2014 Vol.32 autumn

contents

P 3 »
特集
お互いに気持ちよく暮らす家 — 岐阜県大垣市 S 様邸

P 7 »
WOOD WINDOWS 木製サッシ
越井木材工業株式会社

P 8 »
矢橋の注文住宅

P 9 »
CLOTH

P 10 »
ミャンマー・ベトナム タイ族の伝統衣装
SGH (スーパーグローバルハイスクール)

P 11 »
YABASHI KOUBOU 矢橋工房
手仕事による匠の技

連載
中山道赤坂つれづれの記 文 / 故 清水春一 菱田毅斎・海鷗父子

心豊かな暮らし

表紙写真：矢橋家 書院より
P1 三宜亭1Fリビングダイニング
P2 三宜亭2F寝室



For the rich life of the mind



02



01

01 2階のファミリースペース。大量の本を収納できる本棚には、読み聞かせをされるという奥様の本もたくさん収納されている 02 家族で揃って食事をするダイニング。襖を開けると和室と繋がり、さらに広々とした空間に 03 お庭に咲くかわいいお花。主にお母様が手入れをされている 04 玄関アプローチはスロープに。手摺もついているため安心



04



03

■ 特集

お互いに気持ちよく暮らす家

岐阜県大垣市 S様邸

三世代でお住まいのS様。共働きのご夫妻、会社員の娘さん、そして、家庭菜園、ガーデニング、書道、華道、グランドゴルフと多趣味のお母様は、それぞれに充実した暮らしをされている。お互いに生活リズムが違って、気兼ねなく暮らせる工夫がされたS様邸。

教育関係にお勤めのご夫妻は、本が多く2階のファミリースペースには、本がずらりと並ぶ。大量の本が収納できる様、空間に合わせて造作加工、塗装をし、本棚とカウンターを設置した。「ここで仕事をする、集中できてはかどります」と、ご主人。

賑やかなのがお好きな奥様。「先日12名の友人を招いてホームパーティーを開催しましたが、大勢集まってもゆったりと楽しめました」と、広々としたリビングは、奥様のお気に入り。

リビングやダイニングでは、家族や友人と楽しく和やかな時間を過ごし、仕事や読書などに集中したい時は、それぞれの空間で自分の時間を過ごす。



09



06



05

05 木の温もりを感じる広い玄関ホール。矢橋オリジナル無垢フローリング、オリジナルの照明、透灯(とうとう)やドアが気持ちを落ち着かせてくれる 06 リビングでくつろぐS様ご家族。広々としたリビングで、ペットのマルチーズ犬「すずちゃん」も元気に走りまわる 07 毎日大切に育てている家庭菜園の野菜を収穫するお母様 08 ピアノをしなやかに演奏する娘さん。親子で連弾することも 09 外観。S様が弊社モデルハウスにご来場された際、気に入っていただいた「懐」シリーズ 10 家庭菜園で収穫したばかりの新鮮な野菜で夕食の準備を 11 お母様が生けられたお花。お花のある暮らしは、心を豊かにしてくれる 12 リビングの矢橋オリジナルピクチャーレールに飾られた書はお母様の作品



10



08



07



営業担当
住宅部 課長 金森善彦

S様ご家族は、それぞれを気遣うことの出来る素敵な家族です。生活スタイルが変化し、今まで支えてくれた母への感謝と、これから巣立っていく子どもたちのことを考え、家族が快適に暮らせる住まいにしたいと感じた次第です。

生活のリズム(時間帯)は、それぞれの年代で異なります。一つ屋根の下で大勢が暮らす為には、お互いを気遣い、思いやる気持ちがあってこそ、気兼ねなく暮らせるのだと改めて教えていただきました。ありがとうございます。

これからも末長くお幸せに。



12



11

自然の恵みを感じながら

自然素材にこだわったというS様。矢橋オリジナル無垢フローリングを気に入っていただき、1階も2階も無垢フローリングとなっている。

太陽光発電、雨水タンク、家庭菜園など、自然の恵みを活かしながら、暮らしを楽しまれている。

心豊かな暮らし

アクセントとして、建築の一部に布を使用する。床の間にお気に入りの絵を飾り、お庭の花を活かしてみる。

薪ストーブを囲い家族との時間を楽しむ。木の温もりを感じるカウンターで食後に音楽を聴きながら、ゆっくりとお茶を飲む。忙しい毎日の暮らしの中の、自分だけのちょっとした贅沢。

私たちは、そんな空間を提供したいと考えております。

温故知新

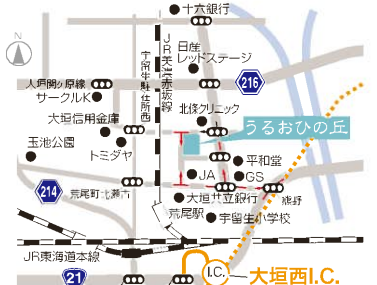
矢橋の家の理念

人が住むべき緑豊かな心休まる良い環境に、天然素材を活かした日本の伝統を受け継ぐ家に住もう。日本の原風景を取り戻し、日本人が育つ住環境をつくりたい。

矢橋の家のこだわり



モデルハウスはこちらでご覧いただけます。



NAVI: 岐阜県大垣市荒尾町1524-95

矢橋林業株式会社
YABASHI

住宅部 〒503-2122 岐阜県不破郡御坂町表佐410-1 TEL.0584-22-0001
品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001 認証取得企業

0120-884-039

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

矢橋林業 検索



YUURAKU MODELHOUSE



KAI MODELHOUSE

矢橋の注文住宅

WOOD WINDOWS 木製サッシ

PROMOTION OF URBAN UTILIZATION WITH LOCAL FORESTRY RESOURCES



木製サッシは木の風合い、色、柄が建物外観のデザイン性を向上させるほか、木のぬくもりが住まう人へ癒しを与えることも期待できます。

木は、大気中の二酸化炭素を吸収して成長します。そのため、森林による二酸化炭素の吸収は、地球温暖化の抑制に大きく貢献します。

また、木材中には、二酸化炭素由来の炭素成分が多く固定されています。そこで、木から作られた木材製品をできるだけ長く使うことも、同じく環境に大きく貢献するのです。

都市部や住宅地が「都市の森林化」「第2の森」などと言われるのは、そのためです。

窓枠に木を使うということは、それらの利点とともに省エネの効果が見込めます。

一般にサッシに使用されるアルミや樹脂を比べ、木材には熱を逃がしにくい性質があるため、木製サッシを使うことで断熱性を備えることが可能となります。

また、木製サッシを製造する際にかかるエネルギー量は、他素材のサッシを製造する場合よりも少なく済むため、環境に配慮された製品といえるでしょう。

性能のみならず、美観においても木製サッシは優れた面をもっています。このように、木製サッシの利用は地球環境の改善に貢献しながら、私たちの暮らしにすばらしい効果をもたらすことができるのです。

越井木材工業の木製サッシには、サーモウッドが使用されています。

サーモウッドとは？

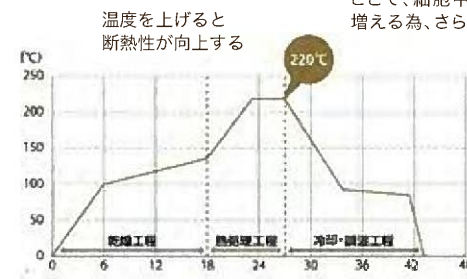
薬剤を使わず220℃の高温で熱処理した木材です。

湿度の高い日本にあわせて改良したもので、木材に高い寸法安定性と耐朽性を付与できるのが特徴です。

断熱性

寸法安定性

耐朽性



安心のアフターメンテナンス対応

クレーム・定期点検・メンテナンス&リフォーム(有償)への対応を3本柱としています。定期点検は半年、1年、2年、5年、10年の5回実施しており、メンテナンスに関しては、木部の再塗装やガラスの割れ等有償で対応しています。

本社: 大阪府大阪市住之江区平林北1丁目2番158号

<http://www.koshii.co.jp>



越井木材工業株式会社

ミャンマーの伝統衣装 ロンジー

ロンジーとは、ミャンマーの伝統的な巻スカートの総称です。
男女とも着用し、足元はサンダルが一般的なスタイルです。また、正装としても扱われます。

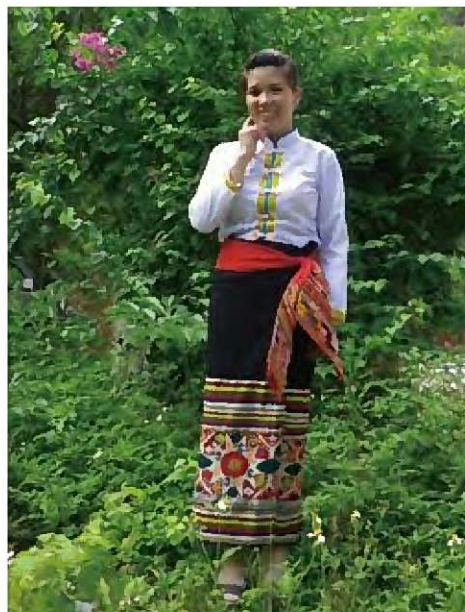


女性用は、結び目を腰の横に。男性用は、おへその辺りで結びます。上着は主に男性はシャツ。女性は、ロンジーに合わせて作る場合もあります。

伝統衣装のモデルは、すべて矢橋グループ MyanmarCAD(ミャンマー)、VINAWHITE(ベトナム)の社員です。
ミャンマーの社員は、通常ロンジーを着て仕事をしています。

ベトナム タイ族の伝統衣装 タイスカート

タイスカートは、タイ族の伝統衣装で、主に、お正月やお祭りの時に着用します。
上着は、白いシャツで下のスカートは、自分の手で織ります。



頭にはベトナム式ヘッドスカーフ「Pieu(ピエウ)」をかぶることもあります。

SGH (スーパーグローバルハイスクール)

2014年8月8日、スーパーグローバルハイスクール指定校である大垣北高等学校の方々に来社されました。当日は、工場と研修室を見学された後「日本の会社でどのように働いていこうと考えているか。どんな夢を持っているか」というテーマで、弊社のベトナム、ミャンマー、中国などの日本国外出身社員と生徒さんたちが将来の仕事や夢について語り合いました。

この日のことが将来、少しでも役に立てればと思っています。

スーパーグローバルハイスクール事業とは？

文部科学省が2014年度より開始した事業。急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成することを目的としている。スーパーグローバルハイスクールは、その指定校であり、全国で56校が選ばれている。



CLOTH

ベトナム、ミャンマー、カンボジア・・・
さまざまな国の布を使って部屋に彩りを添え、空間を楽しむ



三宜亭1F応接室



矢橋工場の造作加工

矢橋工房では、漆器だけでなく、家具やカウンター、ドアやフローリング、その他巾木や廻縁といった造作材も製作しております。

矢橋オリジナル商品



矢橋オリジナル無垢フローリング

刷毛で着色をした後、下塗りし乾燥させ、中塗りをして乾燥、最後にツヤ消しの塗装をするという順で、材料を目で見て手で確かめながら一枚一枚丁寧に仕上げております。機械では出せない手づくりの温もりをお届けできればと思います。



矢橋オリジナルドア

垂井工場で使用している構造材の端材を利用して、ドアの下地を作り、タモ材で仕上げます。そして、一枚ずつ塗装をした後、ガラス、ドアノブなどを取付けます。天井まで伸びる背の高いドアは、玄関ホールやリビングに広がりを与えます。



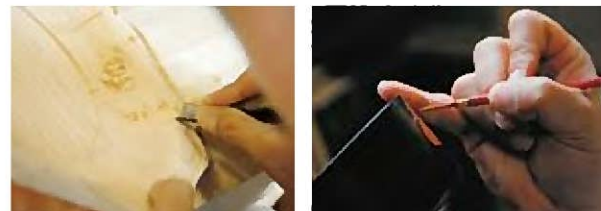
矢橋オリジナル照明透灯（とうとう）

木材の面皮の自然のゆがみを生かしてデザインした透灯。2枚の板を合わせ、オリジナル塗装をした後、漆を塗った和紙を貼ります。和紙を通して光るやさしい灯り、一つずつ異なる木の表情をお楽しみください。

漆器ができるまで

素材づくり

矢橋林業の倉庫には、膨大な量の材料となる木材が眠っています。堆く積まれたこの木材を見上げていると圧倒されてしまいます。この倉庫では自社の山から伐採した木を一旦天然乾燥させ、その後人工乾燥機へ入れて無理なくゆっくりと乾燥させます。そして倉庫へ移動させて養生させます。これは材料となる木のコンディションを整える為に、何年もかけて行う作業です。そうする事で、割れや歪みなどの少ない上質な材料となるのです。十分に乾燥された材料の木は、工場内で個割りにされ、ろくろ室で一つ一つ削り出されます。決められた形通りに削る為に、ゲージと呼ばれるならいに沿って削り出していきますが、細かな部分は全て手作業。小さな刃物で手仕上げしていくのです。こうして漆器の素材となる材料は自社で作られ、職人の手によって形作られていきます。



塗り

形作られた木地が工房に運び込まれ、いよいよ漆塗りに入ります。漆独特の香りが気持ちを引き締めます。凜とした空気、静かな時間、その空間の中で職人は、一つ一つ丁寧に漆を塗り始めます。最初に木地を強化する為に「木固め（きがため）」と言う作業を行います。その後、漆を塗り、乾く前に拭取り、乾燥。この工程を十回以上、物によっては四十回も繰り返します。さて一言で「乾燥」と言っても、漆の場合、空気中の水分と結合して、化学反応により硬化する為、加湿が必要となります。漆の種類によっては湿度を微妙に調節し、二〜三日かけてゆっくりと乾燥させるものもあります。季節や天候によって漆の乾き方が違うので、品質を一定に保つ為、温度・湿度を管理できる「風呂（むろ）」と呼ばれる部屋に入れて、漆を乾燥させるのです。作業はさらに続き、朱を塗ったり、時代を付けたりと、商品によって様々ですが、完成まで六十工程以上あるので、かかる日数はおよそ3ヶ月。こうして漆器は出来上がっていきます。日本伝統の什器のもつ味わいを、どうぞ心ゆくまでお楽しみ下さい。



茶道具



飾る



家具



灯り



YABASHI KOUBOU

「かたち」を模索し、材料を調える

温故知新の文字の中に我々矢橋工房の目指す工芸の道はありと考えております。

漆工芸は東洋独特の工芸技術であり、中でも日本の漆工芸は世界的にも高く評価されていました。CHINAが陶器を指すように、JAPANは漆器という意に用いられております。日本の風土に生まれ育った原材料の漆を用い、日本人の手によって磨き上げられた漆工芸は、日本を象徴する匠の精華であります。木地の木材は持山から出材した広葉樹を長年に渡り蓄積し、養生、乾燥し吟味した木材をそれぞれの用途に余すところ無く用いております。それは、天然の木材を大切に使用する日本の伝統技術である木地氏の仕事を踏襲するものであります。



私たちは、単に無垢フローリングや巾木、廻縁、ドア、カウンターなどを販売しているのではなく、心豊かな暮らしができる空間を提供したいと考えております。矢橋オリジナルピクチャーレールも空間をつくるための1アイテムです。

「矢橋の家」は、何かが違う。その何かを感じていただければ幸いです。



悠楽モデルハウス カウンター



悠楽モデルハウス リビングダイニング

「矢橋の家」のオリジナリティー

「矢橋の家」の明確な特徴はオリジナル建材にあると自負しております。

それは25年前に遡ることになりますが、社有林から出材する広葉樹の原木を原木としてそのまま木材市場で販売するだけではなく、如何にして付加価値を付けるのかという取り組みから始まりました。まず、製材して半製品の販売を試みましたが、天然自然の木材を工業製品のような基準で欠点を挙げられ、多くの木がスペックアウトとなってしまいました。何百年の時間をかけて育った木にも、苦勞して出材した社員にもあまりに申し訳なく、また、情けなくなるような評価しかしてもらえませんでした。一本一本の木の持ち味を生かした使い方ができないか？と方針を新たにし、自社で製材、乾燥、加工、塗装を一貫して行う事と致しました。

その当時、先代社長のところには白洲正子先生が度々お越し頂いており、親しくお付き合いを頂いておりました。私が先生に木を活かした仕事をしたいと思っているという話をさせて頂いた折に、白洲先生から「それじゃ漆をやってみたら」とのお言葉で人間国宝だった黒田辰秋先生の作品や、室町時代の漆絵の名品を見せて頂

くなどきっかけを頂きました。その後、岐阜大学の小島教授の下を訪ね、岐阜県の技術アドバイザー制度を利用して頂き技術的なご指導を仰ぎ、漆芸家の夏目有彦先生もご紹介を頂きました。

弊社の木材加工の出発点は大量生産による商品の製造ではなく、芸術に近いところのオリジナル製品の制作に原点があります。流行に左右されない歴史を経た普遍性のあるデザインとポリシーを持ち、デザインの意図を理解した職人の技能を融合させたものづくりを目指しました。そのような志、観点において、我々の事業がアジアに広がった中、日本でのものづくりに留まらず、優れた物、例えば布、木工品、漆工芸品、など伝統の中から選び出し、室町、桃山の茶人が選び出したように素晴らしき物を選び、意匠として採用し、或いはアジアでものづくりを行い、皆様方へお届け出来るように事業を展開して参りたいと思っております。

矢橋林業株式会社
代表取締役社長 矢橋龍宜



09



05



01



10



06



02



11



07



03



12



08



04

01 漆器の下地づくり。椀の縁に布を貼り補強をしている 02 補強として、寒冷紗（かんれいしゃ）という布を使う場合もある。矢橋工房の漆器は木地をヨコに使用しているため通常布は必要ない程の強度がある 03 一人掛けソファ一梢（こずえ）の塗装。オイルを刷毛でしみ込ませて布で拭き取るという工程を繰り返して、仕上げる 04 モルダーの刃。モルダーとは、様々な形状の刃物を使用することにより、木材を多様な断面形状に加工できる機械のこと。特殊な形状の廻り縁などの加工をすることができる 05 やりがんなを使ったカウンター材の加工 06 やりがんなと、やりがんなで加工した漆仕上げテーブル游（ゆう） 07 木工旋盤で漆器の木地をつくっている 08 手バイトを使用して木地に模様を入れている 09 様々な手バイト。バイトとは、材料を削るための刃物のこと。手で使用するため手バイトと呼ばれている 10 矢橋オリジナルドアの塗装。色むらが出ない様に素早く着色し、片面が塗れたら一度乾燥させる 11 矢橋オリジナルドアの仕上げ 12 矢橋オリジナル無垢フローリングの塗装。スプレーガンで均一に塗料を吹き付ける

手仕事による匠の技

「矢橋の家」には、今まで培ってきた矢橋工房の匠の技がぎゅしりと詰まっています。

矢橋工房は、手仕事にしか出せない味わいにこだわります。手仕事と言っても全て手加工をする訳ではなく、時には機械も使います。しかしながら、手加工ができる技術者が機械を使って加工をする。このことはとても重要だと考えております。また、私たちは、加工や塗装の技術だけでなく、技術者には教養も必要であると思っております。

本物、美しいものを目で見、肌で感じ、そしてお茶のお稽古をするなどして技術と共に今後とも教養を身に付けて行きたいと思っております。



お茶のお稽古をする弊社社員

菱田毅斎・海鷗父子

うみゆり連載集 中山道赤坂つれづれの記 故清水 春一

幕末の世上混沌としたときに、大垣藩政に

陰から大きく貢献した学者の一人として菱田

毅斎と海鷗の父子を忘れることはできません。

菱田毅斎は、大垣城西の久瀬川村で農業兼商業を営む、今利屋という屋号で知られた旧家に生まれました。生来学問好きで、若いころ友人と計って京都から学者を招いて勉強したほどであったと伝えられています。そんな人物ですから、家督を弟に譲って別家し、学問一筋に打ち込んで、やがて大垣藩では始めての私塾を開いたり、藩校の創設にも尽して、御城代戸田睡翁に認められ、殿様の侍講に推挙されました。農民、商人でありながら苗字帯刀を許され、十分に取り立てられるという、当時としては珍しい存在であったようです。既にご紹介したように文化十年（八三）、頼山陽が初めて美濃を訪れたときも、菱田毅斎宅を訪ねています。毅斎は矢橋赤水や江馬細香らを迎えて、ともに文学を語り、酒を酌み交わして山陽を歓待しました。また自分の弟子（後藤松陰）を山陽に委ねたりしているのも忘れられない逸話の一つです。

傘松の観音閣で詩を賦す

毅斎（名は重明、字は伯麗、通称は清次といい、毅斎は号）は子福者で七男一女があつて、みな立派な人たちです。中でも六男の海鷗（名は重明、字は士瑞、通称は文蔵といい、海鷗は号）が父に劣らず学問好きで、寺子屋を開いたりしていました。そのころ時の大垣藩政を担当し活躍していた小原鉄心に認められ、鉄心の片腕ともいえるほど信頼と敬愛をうけました。その影の形に添うように、幕末風雲急を告げる中を東奔西走して大垣藩のために働きましたが、その最後の段階で、慶応四年（八六八）二月三日鳥羽伏見の戦が起きます。鉄心は新政府の参与として朝廷にあり、その養子兵部は徳川慶喜の下で大垣藩兵五百を率いて幕軍に所属していました。つまり父子が敵味方に分かれ、譜代大名の大垣藩も官軍になるか賊軍になるかという、重大局面に立たされました。

鉄心の使者として兵部説得に出かけた海鷗は、二度目に長州軍に捕えられてしまいます。

あわや処刑されようとしたとき、泰然自若として筆紙を求め、即座に七言絶句の「絶命の詩」も「屠腹の詩」ともいう有名な詩を賦したのです。敵将は感銘し、あたら立派な人材を亡ぼしてしまうのは社会のため惜しいと助命、解放されました。

命拾いした海鷗は、明治政府において福島県知事や青森県知事、文部省、広島や長崎の判事など多くの要職を歴任しました。そのために、父の名は子の名の陰に隠れてしまつたようです。

さて、こうした立派な学者父子も、以前から赤坂宿の矢橋家との因縁や交流ばかりでなく、久瀬川と赤坂という近距離にあるふるさとでの自然を愛し、赤坂金生山へはたびたび訪れております。殊に海鷗は、官界を引退してからも金生山に登って得意の漢詩を賦して余生楽しみました。晩年は不遇でしたが、意に介せず超然とした風格を感じさせたようです。

『菱田海鷗遺稿集』の中に、金生山で詠じた詩があります。

三月十日 陪小原 高岡 天夫 同諸友
遊赤坂山 飲于観音閣分真山民世換
山如昨 之句為韻 予得昨字
人生憂あり、豈（あに）楽しみ無からんや
槍（ひざし）を提（そく）げて賊（あ）を逐（お）つことは、已に昨なり
春服（しゅんぷく）を新に裁す、五六人
香芹（こうきん）苦菊（くきく）幽かに酌（しやく）を訂す
酔（よ）つて山閣に倚（よ）すれば日、年の如し
流鶯（りゅうおう）一声、山花落つ

この詩は、戊辰戦争（八六八年）のあと明治二年に小原鉄心、高岡三郎兵衛（夢堂）をはじめ数人の人々とともに金生山へ登ったときに、詠まれたものです。観音閣（堂）というのは明星輪寺の塔頭で、傘松のところに祀られています。そこで中国の故事などを語りながら、過ぎ去った戊辰戦争の回顧談に花を咲かせ、枝から枝へと飛び交う鶯の鳴き声を聞き、桜の花がちらちら散る風情を欣賞した優雅さが、目に浮かぶようです。



矢橋林業株式会社